

「第2回向島ニュータウンのこれからを話し合う集い」開催報告資料

1 集いの概要

- 当日は、第1回と同規模の約100名の住民の方に参加してもらい、全体的なテーマと個別具体取り組みの検討へつなげる個別テーマの2度のグループでの話し合いにおいて、活発な議論が行われました。
- 前回の集いやこれまでのワーキングに参加されていない住民の方々の参加も多く、改めて向島ニュータウンのまちづくりで重視すべきテーマや取組について議論を重ね、共有をすることができました。その中でも、どのグループでも共通して出された課題や取組については重点的に緊急的に対応すべきこと、ワーキングを超えて連携し検討、取り組むべきこととして、ビジョン策定の中で整理していく必要性も明らかになりました。

目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョン策定にあたってのまちづくりの気運を高める住民参加型の議論の場とする。 ・ これまでのビジョン検討の成果をふまえたテーマ設定で話し合いを行うことで、ビジョン策定に向けた重要な課題や取組を明らかにし、また具体アイデアを募る。 ・ 意見を踏まえた上で、ビジョン策定を進めるとともに、今後の具体的な取り組みにつなげていく。
日 時	2016年10月29日（土）午前10時～正午
場 所	二の丸北小学校 体育館
参加者	約100名 WGへの参加メンバーの他、向島ニュータウンの住民、事業活動、社会活動等を実施されておられる方
内 容	<p>【前半】</p> <p>「命を守り、大切にすまち」「若い世代が住みたいまち」の2つのテーマでそれぞれ4グループに分かれ、これまでのワーキングでの話し合いの内容などを共有し、まちづくりの課題や方向性について話し合った。</p> <p>【後半】</p> <p>○7つのテーマを設け、希望するテーマに分かれ、向島の資源を生かしたまちづくりの方向性や具体的な取組アイデアを話し合った。</p> <p>①誰もが住み続けられる、生活を支える商業 ②状況や人に応じた命を守る防災 ③若者から高齢者、障がい者、中国帰国者など、人をつなげる共生コミュニティ ④住み続けるために必要な交通・移動手段 ⑤若い世代が感じる新しい商業・観光・PR ⑥若い世代の定着・流入を支える住まい・公園等住環境 ⑦地域ぐるみで育む子育て支援や教育環境</p> <p>○全体発表 ○検討委員（高田先生・乾先生）からのコメント *必要とする参加者有無に関係なく、保育（託児）、手話通訳、中国語通訳者を準備した。</p>

2 主な意見

第2回「向島ニュータウンのこれからを考える集い」グループワークまとめ（資料1-2参考資料）より作成

【前半】グループでの話し合い①

グループ	内容
1班 (いのちを守り、大切にす るまち)	<ul style="list-style-type: none"> ●拠点づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・集会所で、人が集まるきっかけをつくり、コミュニケーションを測りたい。 ・野菜販売所や道の駅があると集まるきっかけになる。 ・中央公園の手入れをしたい。 ●視聴覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを取ることで、周囲に「身体的な困難」があることを分かっ てもらえたらいいと思う。 ・対面朗読をむかいじま図書館でもやってほしい ●空き家の活用：現在ニュータウンに600戸ほどある。 <ul style="list-style-type: none"> ・リノベーションをして、若い人たちの入居につなげる。 ・災害時のために高層階に避難場所を。 ・福祉サービスに活用（2部屋続きにするなど広さを確保）。
2班 (いのちを守り、大切にす るまち)	<ul style="list-style-type: none"> ●住まい <ul style="list-style-type: none"> ・集会所の利用に仕方・リニューアルについて、住民主体で考え検討している。 ・花壇の世話を通して、人とつながりを持ちたいと思い実践している方がいる。 ●高齢者 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所づくり、見守り活動が、各学区の社協を中心に定着してきた。 ・頑張ってやりたい人、横並びでと思う人、そっとしてほしいと思う人もおり、様々 な人との良好な関係を保つバランスが必要。 ●子育て <ul style="list-style-type: none"> ・食の提供を通じて見守り活動が継続。子どもの貧困対策にしっかり取り組むこと が必要。 ●防災 <ul style="list-style-type: none"> ・住む街区、低層・高層など棟ごとに対応が異なる。一時避難をどうするか具体化 の検討を議論している。 ●安全 <ul style="list-style-type: none"> ・公園の緑について、自然を感じるのと裏腹に人の目が届かず不安を感じるので 適切な管理が必要。 ・防犯カメラを設置すると防犯に効果があるが、経費などの課題がある。
3班 (いのちを守り、大切にす るまち)	<ul style="list-style-type: none"> ●防災避難訓練（モチベーション） <ul style="list-style-type: none"> ・あきらめず続けることが重要。公的機関と自主防災会が協力することが不可欠。 ●防災避難訓練（高齢者・障がい者の参加） <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者も参加し、問題を洗い出す必要あり。 ・避難訓練は地域に十分還元できるようなものにする必要がある。 ●防災避難訓練（障がい者避難の注意点） <ul style="list-style-type: none"> ・障害者は避難が一步出遅れる、必要な医療、電気、災害時の備品の確保が必要。 ・聾啞者は無事ですカードのようなもので表現し、訓練に参加する。 ●防災避難訓練（災害時に備えるための日常のコミュニケーション） <ul style="list-style-type: none"> ・リアリティのある訓練が必要。隣近所でのコミュニケーションが不足。 ●防災（管理） <ul style="list-style-type: none"> ・そもそもの避難場所が分からない。 ・避難の場合、高齢者・障害者・外国人への伝達手段は、回覧板より放送が有効。 ●多文化共生のための伝達手段 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有のための FM 局開設。中国語放送を行う計画もあり。日本語がわか

	<p>らない人や聴覚障害の人に対しては視覚情報が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外国人コミュニティのコミュニケーション ・外国人コミュニティにおけるつながりの場を，料理教室を開くなどしてつくる。また，外国人同士での情報交換（LINEなどで）。
<p>4班 (いのちを守り、大切にす るまち)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもから高齢者まで，資源を生かそう ・子ども孫も済み続けられ，ここを終のすみかにしたい。 ・磨けば輝く資源を生かす。自然環境を健康づくりに生かす。 ●命を守るためには人のつながりが必要 ・経験のある人が多く，人の役にたつことで生きがいにつながる。 ・顔見知りになる，声かけをする。(夜遊んでいる子どもにも) ・自治会などで話し合う場を。集える場を使い，集会所をもっと活用できるように。 ●健康増進や予防が大切 ・認知症の方が増えるが，介護者家族の集える場が必要。 ・障がい者のスポーツセンターが必要。 ●施設整備が必要 ・駅前に便利な施設(郵便局など)を。 ・中国語(外国語)のサインが必要。 ・安全確保のための外灯が必要。
<p>5班 (若い世代が 住みたいま ち)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●向島NTへの子育て世代の入居 ・若者向けリノベーション住戸が少ない。子育て世帯を呼び込むにはもっと受け皿が必要。 ・若い世代に定着してもらうにはルールの見直しなど政策面の変更が必要 ・若者向けに工夫された間取りもあるが，市営住宅には所得制限が有り，入りたくても入れない人も出てくる。 ●若者の定着 ・結婚後はみんな出て行く。出て行く理由を考える必要がある。入居条件以外の要因があるはず。 ●二世帯の住戸 ・中年世代は親の面倒を見るために近くに帰ってくるケースもある。 ・現状では二世帯が住むのは難しい。二世帯受けのリノベーションは無理だが，建て替えならできるのではないか？ ●小中一貫校 ・小中一貫校の影響は大きい。地域に子どもたちがいるだけで町が活性化する。 ・子育て世代が入ってきて人が増えると20年後はどうなるのか？学校が不足するのではないか？
<p>6班 (若い世代が 住みたいま ち)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●共働き・若い子育て世帯のしんどさが気になる ・母や子どもの孤立が気になる ・「子育てが分からない」「家族の中で子育てを教えることができなくなっている(核家族)」→近所で支える必要がある。 ●子育て世帯を地域でサポートする仕組みをつくりたい ・若いお父さんお母さんをサポートする・アドバイスする機会をつくりたい。縦世代でのコミュニケーションがあればよい。 ・個人レベルではできない。システムづくりのための話し合う場(検討の場)をまずつくりたい。 ●近くで買い物できる場所がこれからさらに必要。 ●若い人に魅力あるまちに：小中一貫校開校を呼び水に ●地域防災に必要なこと ・学校跡地を避難場所に。 ・警報や情報が全街区に伝わるしくみが必要。 ●5街区D棟でのコミュニティ活動について ・集会室＝近所だけでなく，棟を超え，街区での関わりづくりも必要

	<ul style="list-style-type: none"> ●まちをキレイに <ul style="list-style-type: none"> ・公園の管理の問題。今の中央公園は怖い ・使う公園，散歩できる公園に。 ●魅力的な施設も必要 <ul style="list-style-type: none"> ・駅西側に商業施設を，学校跡地の活用，農地が近いことから青空市場があったらいい。 ●どの世代も暮らしやすいようにコミュニケーションが豊かなまちにしたい。
<p>7班 (若い世代が住みたいまち)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てしやすい環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の時から地域で見守っていける環境づくり。 ●若い世代が入ってくる施設・働ける場 <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が外から入ってくる施設が必要(=働く場) ・地域で仕事つくることが必要。 ●子どもに誇りをもってもらうための「向島の歴史」 <ul style="list-style-type: none"> ・向島の歴史を研究し環境づくりにつなげたい。 ●跡地の利用 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや地域住民が使える施設を整備してほしい(青少年活動センターなど)。 ・子どもが放課後も集える場所ができないか。大人も使える場に。 ●児童館の上の子ども(中高生)の過ごす場 <ul style="list-style-type: none"> ・児童館に行く子ども上の年代が安心して過ごせる場が必要。 ・中高生などが活やくできる場があれば、働く親にとっても安心できる。 ●住まいのPRをまちの内外へ <ul style="list-style-type: none"> ・向島の住宅のことを外向けにもPRしたい。 ・向島の住民がまちづくりをしっかりと考えていることをPRしたい。 ●大学、駅が活かされていない <ul style="list-style-type: none"> ・文教大学があるのに向島は通過しかしていない。駅前の土地利用がさびしい。 ●一貫校について：小中一貫となることをきっかけにして、まちをよくしたい。 ●若い人の居住ニーズの本音・課題 <ul style="list-style-type: none"> ・足かけで住んでいる意識の人も少なくない。 ・収入階層の問題がある。ワークライフバランスとれない家庭が多い。 ・教育面でのイメージがよくない ●考えるべきまちのイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・終の住処として考えてもらえるようにしたい。イメージを変えていく。 ●活動への参加が不足
<p>8班 (若い世代が住みたいまち)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちのイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・立地や施設は充実しているのではないか。 ・「向島」と名前がつくだけで、まちのイメージがよくない。イメージの転換。 ●コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ・活動の受け皿づくり。多世代居住等多様性が必要。 ●学校の跡地活用 <ul style="list-style-type: none"> ・活用の検討が必要。高齢者の集える場、誰もが使える場が必要。 ●高齢者福祉 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方への対策が遅れている。近鉄バスの敬老パスが廃止されると聞いた。 ●居場所 <ul style="list-style-type: none"> ・健康相談等ができる常設の場所を。高齢化をうけて、高齢者の高齢者による高齢者のための施設が必要。(高齢者喫茶・健康喫茶) ●中央公園：散歩ができる楽しい道に。 ●改修・建替 <ul style="list-style-type: none"> ・耐震改修・大規模修繕に莫大な資金が必要。助成補助金のアップをしてほしい。 ●分譲住宅で民泊があるようだ。市営住宅空き室を民泊にしてはどうか。 ●歴史を生かした観光振興 ●自主防災会の人員が不足。

【後半】グループでの話し合い②

グループ	内 容
1 班 (生活を支える商業)	<ul style="list-style-type: none"> ・ それよりも新たな再開発等でお店を誘致することが必要。 ・ 若い世代が住みたくなるように住宅リフォームが必要。 ・ 向島は交通に非常に便利、便利な中で人が集まれる場所、商店街、飲食街というような場所で人が集まって楽しめるそういうようなところを目指したい。 ・ テニスコートがあり、結構若者が集まっている。昼食をとる場所も望んでいる。
2 班 (命を守る防災)	<p><u>防災のための日頃の交流促進に必要な 3 つの具体的な案</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 つ目は、防災関連のアンケートをとることをきっかけに、住民同士がお互いを知る。 ・ 2 つ目は、自治会の組織力を高める。 ・ 3 つ目は、通学路を挨拶通りにする。 ・ 中学生を防災活動に参画してもらうために、学校にいる平日、障がい者の方にも参加し接してもらう実践的な訓練が必要。 ・ 高齢者の方への支援：「あったか訪問」という仕組みを参考に、個人情報保護の壁を乗り越えながら、自主防災会と連携した取組はどうか。 ・ 中国帰国者ほか外国の方への支援：特に中国語での防災の回覧はできつつあるが、問い合わせなどがあつた際は対応できない。 <p>→①通訳を交えて話し合いたい。</p> <p>→②日本人も中国語の基礎講座で最低限の会話を身につけたい。</p>
3 班－1 (人をつなげる共生コミュニティ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの中心である街区内の集会所の活用がうまくいっていない。(鍵を管理する人がいないなど) ・ 特に社協などは居場所づくりとして集会所を使う事例もある。まず優先的に使えるように。 ・ 障害者の方にもやさしいまちづくり、そのためのバリアフリー化。 ・ 1 街区も着手したようだが市営住宅、UR、分譲等、状況は違うがバリアフリーを進める必要がある(集会所限らずまち全体に)補助金整備なども必要になってくる。 ・ 中央公園(現状は不潔で暗い)を子どもも安心して遊べるように整備、管理が必要(誰が管理するのかという問題もある) ・ 学校跡地について、若者を呼び込むための施策が必要。菜園やガーデニングなどが活性化につながるのでは。
3 班－2 (人をつなげる共生コミュニティ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジオ体操、介護のデイサービス、MJ での歌の集い、秋の祭典など、人をつなげていく機会や場づくりがあるが、さらに学校跡地も活用し、人をつなげるような場や機会づくりをしていく。 ・ 市営住宅の空き家を利用した障害者のグループホーム、学生や子育て層に住んでもらう(目的外利用)。 ・ 身近な集会所をまちの保健室にして、ひきこもりがちな方でも、保健室、専門職の方に相談できるようにする。 ・ バスをもう少し乗りやすく。住民、行政、近鉄バス、一緒になって考えていきたい。 ・ 福祉避難所と在宅避難支援(高齢者、障がい者など、福祉避難所まで行くのが難しい方々への支援)が課題。
4 班 (住み続けるために必要な交通・移動手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニュータウンの中の移動の問題：高齢化が進む中で、車がない、歩けない、自転車に乗れないといった人が病院や買い物に行くためにニュータウン内を細やかに動くための手段が必要。 ・ 例えばコミュニティバスのような仕組み、自転車タクシーのような仕組み、それからセグウェイのような新しい小さな小回りの利く移動手段な

	<p>どが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュータウンの外への移動の問題：近鉄バス，近鉄電車，市バス，が主要な移動手段に対応する敬老乗車証のようなものが必要。 ・バス路線や時刻などの交通調査の話も出ているが，あわせてモビリティマネジメント（利用促進活動，ルート，時刻を提案する等）も重要。
5班 （新しい商業・観光・PR）	<ul style="list-style-type: none"> ・伏見城から向島までのマップ，観月橋に擬宝珠をつける，第二観月橋から宇治川の上からの素晴らしい景色を見るための歩道を作る。 ・商店街にもっと人が集まる仕掛けを作るためのアイデアとして「スタジオ」を作る（ヨガや体操，ストレッチなどスケジュールをたてているんなことをすることで，人が集まり，健康だけでなく楽しい場所にする必要がある） ・ゲームセンターも高齢者の方に人気があるので良いのでは。 ・まち中に増えている民泊：向島でも宿泊の受け皿として作ってはどうか（合法的に，大阪・奈良にもアクセスしやすい向島として） ・宇治川河川敷を鴨川や瀬田川のように踊ったり，家庭際限ができるようなきれいな場に。 ・向島の売りになるものとして，高層住宅間にジップラインを起こしたターザンのようなことが出来れば面白い。 ・宿泊・観光にはバリアフリーが重要（シンプルなものでもいいのでバリアフリー化していく）
6班 （住まい・公園等住環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を呼び込むために「一貫校」を呼び水とするため，宇治市近隣などにも呼び込めたらよい。 ・受け皿となる住まいは市営住宅リノベーションだけでは，所得制限などがあり，不十分。跡地利用に分譲マンションを建設してはどうか。 ・グラウンドを残し野球やサッカーができるように。 ・跡地を高齢者が活用できるスペース，子どもが遅い時間まで居ることができるスペースに活用してはどうか。 ・中央公園を活用し魅力的なまちに（ホテル，ハスの原種が自生などPRを） ・喫茶店があれば，ゆっくり散策できる。 ・普段から子どもを地域全体で見守っていけるような環境づくりを進めたい（PTAだけでなくPTAのOB，高齢者の方などが一体となる） ・地域のイベント（地域運動会や盆踊りなど）地域住民がふれあえるようなイベントを増やしていきたい。
7班 （子育て支援や教育環境）	<p><u>小中一貫校開校で懸念されること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校が少子化の中で行われることが心配。 ・子育て世代が仮に増えた場合，長い目で見れば，人が増えすぎた場合に学校に入りきるのか。 ・所得制限がある市営住宅が多い中で，子育て世代を呼び込めるのか，住めるのか。 ・小中一貫校を作るメリットというのを地域住民が共有しているのか。 <p><u>跡地利用をもっときちんと考えたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に異世代交流，赤ちゃんから高齢者まで広い世代が集える場に。 ・もっと子育て世代の意見を拾えるような機会を，施設にアンケート用紙を置くなどして広く声をかけ，集めたい。 ・中学生の意見を聞く機会についての意見を紹介した（駅前，ベルファあたりにもっと魅力を感じるようなオシャレな店が欲しい。向島のまちに満足している。いい街だと思っているが，夜間の公園横の道が怖い，道路にイルミネーションでキレイにしてほしい等，中学生らしい意見もあった）

3 参加者アンケート結果（抜粋）

アンケート回収票数 46 票

問 集い開催時間の長さは適切だったでしょうか	適切だった 28 (60.9%) 長かった 2 (4.3%) 短かった 14 (30.4%) わからない 1 (2.2%)
問 グループで話し合う時間は適切だったでしょうか。	適切だった 21 (45.7%) 長かった 0 (0%) 短かった 20 (43.5%) わからない 2 (4.3%)
問 参加して良かったでしょうか	よかった 43 (93.5%) よくなかった 0 (0%) どちらでもない 1 (2.2%)
問 自分の意見を十分に言え、他の参加者の意見を聞くことができたでしょうか	できた 33 (71.7%) できなかった 2 (4.3%) どちらでもない 9 (19.6%)
自由意見	<p>○具体的に実現していくことを期待する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いだけで終わるのであれば、皆でシャボン玉を吹いただけになる。本気で誰がやるのか。役所の方は何となく傍観としか見えない。 ・全てが実現できるとは思っていませんが、言いつばなしで終わらせないための提案を期待します。 <p>○話し合いを続けていくことが大事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住みよい街をめざし今後とも話し合いを持っていけたらよいと思った。 ・このような機会を続けていくことが大切だと思う。 ・学校の跡地の利用の話し合い。 <p>○若い世代の話し合いの場への参加が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の親の参加 ・学生の参加 ・中高生の意見を吸い上げる機会、若い人の声も聞いてみたい ・若い子育て世代のお母さんの意見やつどいが必要。 ・若者を呼ぼうと言いながら、「高齢者」が話し合っている。若者の意見をもっと集約しよう。 <p>○ビジョンのまとめ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各 G でのまとめができれば決定の前に各 WG で確認できる場を持っていただきたい。 <p>○個別具体的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅の道の様な市場が出来れば地元の農家と交流が測れるのではないか。住宅供給公社の人も努力して市と話し合いを持ってほしい。 ・「ニュー」という言葉があるのであれば、「当時は NEW だったんだ」という話ではなく、新しさを感じる何かを創る必要性は京都のどのエリアよりも必要なのではないかと思います。(行政の姿勢)

○運営上の反省点（次回に向けての運営改善点）

- ・ 車椅子の方の入場のためのバリアフリー対応が十分でなかったこと。
- ・ これまでの議論の過程を十分に共有説明ができないまま話し合いに入ってしまった。
- ・ 議論が積み重なってきていることや、グループでの話し合いを2度に分けて行ったこともあり、第1回に比べて話し合いの時間が短かったという感想が多かった。